

第3学年「てつがく創造活動」学習活動案

授業者 久下谷 明

2月16日(金) 3階D室 9:00~9:40

- 1 題材名 「好き」って何? ~自分の生活や学びを見つめる てつがく対話~
- 2 考える価値内容 自己/他者
- 3 題材について

3年生から始まる「てつがく創造活動」では、プロジェクト型活動(以下、PJ)とともに、週に1度てつがくの時間を設定し、対話を通して“てつがくする”ことをしてきた。

1学期は、「私が考える『あそぶ学年』(自分の学年)のよいところ」を聴きあい、そこで挙げた「やさしさ」をテーマに“てつがくする”ことを始めた。個々に作成した「やさしさBook」を共有し、「やさしさとは?」「やさしすぎるとどうなるの?」…と、問いを変えながら対話を重ね、考えてきた。2学期前半には、「夏休みはあつという間?それとも長い?」を対話の入口に「時間」について考え、2学期後半には、考えたい問いを出しあって検討し、「天国・地獄はあるの?」について考えた。

また、上述した問いに加え、「あそぶデイ(PJ発表会)は何のため?」(1学期)、「あそぶデイをどうする?」(2学期)といったPJに関わることも考えてきた。2学期末、PJをふり返り、困ったことや悩んだことを聴きあった際には、ある子が「他の人が作っているものが上手に見えて。…(中略)…ミチュアPJのみんなが作っているものが上手に見えて、自分もあんなの作りたいと思って作ったけど、比べてみたら、相手にはいいねとか言われるんだけど、自分では相手の方がよく見える。」と語った。「わかるわかる。」と多くの子が共感する中、別の子は「比べてどうするの?」「自分の作品には自分なりのいいところがある。」と。さらに別の子は「どうしても比較しちゃう。」「したくないんだけど…」と語った。次時から「比べる」をテーマに対話を重ねた。自分の内面で起きていることを素直に語り、それを受け止めて自分の思いを語る子どもの姿を見て、もっと言葉を聴いていたい、さらに一緒に考えていきたいと思った。

本単元は上記の流れの中に位置づく。3学期に入り、2学期末のふり返りの中で子どもから出された問い「プロジェクトはどうしてあるの?」について考えた。子どもたちの記述を読むと、“好きなことをすることで…”“好きなことを研究できる”“好きなことを見つけるため”のように、多くの子が「好き」という言葉を使っていることに気付く。本単元では、この「好き」に焦点を当てて考えていきたい。考える過程では、今の自分は何が好きなのかと問い、「好きな〇〇」を挙げながら、自分を見つめていく時間をとろうと考えている。また、互いの「好きな〇〇」を共有することで、これまで知らなかった友達の一面や自分との感じ方の違い(同じ)を知ること大切になれると思う。『好き』とは?と問われたら、どのように答えるだろうか。好きなことは、自分にとって、そしてPJにおいてどのような意味をなすのだろうか。皆(教師も子どもも)で「好き」に向き合い、考えることを楽しんでいきたい。

本時は、学習活動の6時間目にあたる。対話を通して新たな問いが生まれ、問いが変化していくこともある。その問いの変化や子どもたちの気持ちや思いに寄り添いながら、丁寧に対話を進めていきたい。

4 学習活動計画(6時間目/全8時間)

- ・「好き」に対する今の自分の考えをかく…1時間
- ・自分の「好き」を見つめる。共有する。…3時間
- ・「好き」について対話を通して考える…3時間
- ・対話をふり返り、今の考えをまとめる…1時間

5 本時の学習について

(1) 本時のねらい

『好き』って何?と問いながら、対話を通して「好き」について考えることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時をふり返る。	・サークルの形になって対話をする。/ ・マイクをコミュニティボードの代わりとする。/ ・聴くことを意識しながら対話に参加する。
2 これまでの対話から生まれた問いについて考える。	・必要に応じて、以下のことを行う。 言葉を問い返すことにより、その意味を明確化する。 思いや根拠を問う。/ 対話してきた内容の整理や確認を行う。
3 本時をふり返り、さらに自分で考える。	・1人で考える時間も大切にする。